

(様式3-2) 事後評価シート

番号	6	事業名	主要な道路の整備			市町村名	茅野市		路河川名	(国)299号	箇所名(ふりがな)	糸萱拡幅(いとがやかくふく)				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	当路線は諏訪地域と蓼科高原、さらに南佐久地域を連絡し、観光道路、また地域の生活道路として重要な道路であり、観光シーズンを中心に大型車の入り込みが多い路線であるが、現道は幅員狭小で線形が悪く、また歩道整備も不十分であるため、大型車のすれ違いが困難であるうえ、歩行者の安全に支障をきたしている状況である。通学路にも指定されていることから、通過交通の円滑化及び沿線住民の安全確保への要望が強く、平成20年度に事業着手した。												②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価
	当該箇所は道路幅員が狭小で線形が悪く、勾配も急である。また、(一)角名川渡河部の既設カルバートの老朽化が著しいことから、道路改築の実施により改善を図ることを目的としている。□													・橋梁形式が単径間で橋脚がなく、自然環境の改変を最小限としており、河川周辺が明るくなり景観が改善された。 ・歩道の整備により、沿道住民の生活環境は、整備前の危険な状況から改善された。		A
事業目的	当該箇所は道路幅員が狭小で線形が悪く、勾配も急である。また、(一)角名川渡河部の既設カルバートの老朽化が著しいことから、道路改築の実施により改善を図ることを目的としている。□												③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価
事業概要	当初工期	H20～H24	費用対効果(当初時)	—	事業費(千円)	財源内訳(千円)						・道路パトロールを毎週1回行っており、良好な状態の確保に努めている。 ・道路拡幅により、冬期間の除雪作業性が向上した。 ・地域の人たちが参加する道路アダプトシステムにより、道路環境の向上に取り組んでいる。		A		
	最終工期	H20～H25	費用対効果(評価時)	—	上段:当初/下段:最終()は国補事業分以内	国庫	その他	県債	一般財源							
	当初計画内容(主な工種)	道路築造工 L=330m W=6.5(11.0)m				600,000	360,000				240,000	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価		
	最終事業実績(主な工種)	道路築造工 L=330m W=6.5(11.0)m				657,850	394,710				263,140	・利便性が大いに高まり、地域の発展に寄与するものとなった。(茅野市糸萱区区长) ・勾配が一定になり、車が安全に走れるようになった。見通しも良くなり、歩く人も増えた。子どもも安心して学校に通っている(糸萱区住民) ・旧道の時は、急カーブだったために、年間数台の車が田んぼに落ちていたが、道がまっすぐになり安心して通行できるようになった。(糸萱区住民)		A		
事業期間の延長、短縮理由と分析	・A2橋台基盤が想定より深く、直接基礎から深礎杭に変更となり、この検討及び設計に時間を要したため。												④地域住民等の評価			
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	・A2橋台基盤が想定より深く、直接基礎から深礎杭に変更となったため、費用が増となった。													改善措置の必要性		・特になし
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)								評価							
	直接的効果(定量的・定性的)	・交通の利便性向上□□ □ 交通量が3,303台/日(H17)から3,579台/日(H27)に増加□ 旅行速度が42.2km/h(H17)から45.7km/h(H27)に増加 ・安全性向上□□□ 人身事故3件(H8:1件、H11:1件、H12:1件)→0件(H26～H30) (一)角名川に架かる老朽化が著しい既設アーチカルバートの更新								A		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	・事業完了後の施設が良好に維持されている。今後も道路パトロールなどにより適切に維持管理を行う。 ・事業完了時のPR活動に加え、事業期間中のPR活動を行うことで、公共事業の必要性を広く継続的にアピールすることが必要である。 ・地域の方たちが参加する道路アダプトシステムにより待避所となった旧道の一部を利用して花壇植栽しており、道路環境の向上及び地域住民の交流促進に役立っていることから、旧道利用の事例として同種事業へPRできる。			
		間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	・観光地へのアクセスの向上□□ 周辺の蓼科やハケ岳といった全国的に有名な観光地へのアクセス道路であるが、車道幅員が5mと狭く、大型観光バスのネック箇所であったが、拡幅改良により円滑で安全な交通が可能となり、観光地へのアクセスが向上。 ・水害リスクの低減 (一)角名川の河川断面狭窄部が解消され、水害リスクが低減された。								建設部公共事業評価委員会の意見		・道路整備により、利便性の向上と安全性が確保されていることから、事業の目的を達成しており、地域住民の評価が高いなど総合評価Aが妥当と判断する。		総合評価	A
									長野県公共事業評価委員会の意見		・建設部公共事業評価委員会の意見が妥当であると判断する。		県の評価案	妥当		
										評価監視委員会意見		妥当				
										評価の決定		A				